

約半世紀ぶりに 志々島のだんじりが復活!!

幕などは明治初期の作
43年ぶりに志々島のだんじりが復活し、10月23日、志々島大運動会で披露されました。

内海・塩飽諸島などの太鼓台を調査・研究している中で、志々島にだんじりがあることを知り、島民の熱い思いと重なり復活を実現。

だんじりの組み立てには、ちようさ(太鼓台)やだんじりに現役で関わっている人や大工さん、刺繍の専門家など、島外から50人ほどが訪れました。

志々島の高島孝子さんは「海の中に放り込んで賑やかだった昔を思い出します。思いがけなくだんじりが見れて、とても嬉しいです」と熱心に組み立てを見ていました。また研究グループ代表の尾崎明男さんは「龍や獅子などの刺繍が施された天幕は、志々島オリジナルのもの。色あせていますが貴重なものです。島の人も喜んでいただけましたし、研究グループとして、太鼓台の古い歴史を、また一つ知ることができました」と感慨深く話していました。

毎年、志々島の夏と秋の祭りです。昭和43年頃に最後に解体した状態で倉庫の中で眠っていました。屋根型の太鼓台は高さ2・3m。明治初期に作られたという天幕と横幕には豪華な獅子の刺繍が施されています。

当時、乗り手の子どもたちは、だんじりの四本柱に身体を縛りつけられ、非常に窮屈な姿勢で太鼓をたたいていました。担ぎ手の「チヨーサ、サーシマシヨ」の掛け声で頭上高く差し上げられ、放り投げるなど、荒々しい祭りとして伝承されていました。

熱い思いが重なって復活

今回、観音寺太鼓台研究グループの皆さんが、瀬戸



▲島外から50人ほどが訪れだんじりを復活



▲釘などを一切使わずほぞ穴とくさびだけで固定



▲明治10年頃の作品と考えられる天幕と横幕の刺繍

咲かせてごらん自分の花を

第3回 栗島芸術家村滞在作家展

12月17日(土)～25日(日)



▲市民との交流の中で新たな作品を創作

栗島アーティスト・イン・レジデンス2011秋の招へい芸術家の成果発表会が、栗島海洋記念館周辺で開催されます。

芸術家は、9月から4カ月間栗島に滞在し、地域の文化や環境などからアイデアを得て、創作活動を行い、新たな作品を制作しました。3人の芸術家の成果発表会へ、ぜひお越しください。

詳しくは、今月号と一緒にお届けしているチラシをご覧ください。

▼問い合わせ
地域振興課 ☎73・3013



瀬戸内国際芸術祭2013に 栗島が参加

平成25年(2013年)に開催が予定されている『瀬戸内国際芸術祭2013』に栗島が参加することが、11月9日の瀬戸内国際芸術祭実行委員会総会で正式に決定しました。

第1回の瀬戸内国際芸術祭は、昨年の7月19日から10月31日まで、小豆島・直島・豊島・男木島・女木島・大島・犬島(岡山市)を会場に開催され、105日間の会期中に約94万人が訪れ、予想を大幅に上回る来場者でにぎわいました。

第2回芸術祭の会場には、新たに栗島・伊吹島・本島・沙弥島の4島が参加。会期も春(3月20日～4月21日)、夏(7月20日～9月1日)、秋(10月5日～11月4日)と季節ごとに設けられ、計108日間の日程で開催されます。

栗島での開催期間や開催方法、参加アーティストなどは、今後、島の文化や地域資源、既存イベントの特徴を活かした方法で考えていきます。

▼問い合わせ
商工観光課 ☎73・3042